

被災地派遣レポート〈第102回〉

都市整備局第一区画整理事務所工事課 塚田 宗政さん

1 はじめに

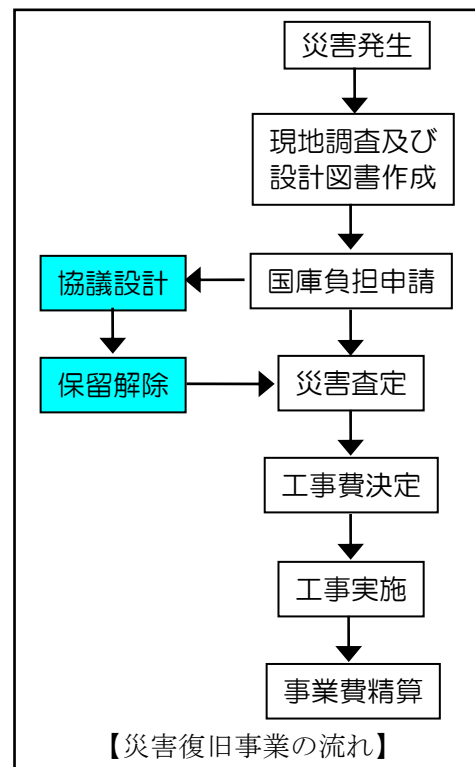
私は、平成24年7月1日から平成24年8月31日までの2ヶ月間、宮城県気仙沼市にある宮城県気仙沼土木事務所道路建設第1班にて、被災地支援業務に携わりました。学生時代にお世話になった宮城の復興に少しでも役立ちたい、それがきっかけで、今回の派遣を希望しました。

2 担当業務の概要

担当した業務は、3.11地震災の復旧工事と、5月の大雨による災害の復旧工事の2つに大分されます。いずれの場合も、国の補助を受ける時は右図の流れに沿って事業が進んでいきますが、工事規模によっては県単独費で復旧工事を進める場合もあります。

地震災の復旧工事に関する業務として、橋梁設計や地質調査を担当しました。担当した橋梁は、災害復旧事業に採択されたものの、周辺の漁港や河川、まちづくりとの調整が不可欠であることから、着任時はフロー図でいうところの「協議設計」の真っ只中でした。他部署との調整や設計委託の監督が主な業務内容です。地質調査については、設計業務の進捗を見ながら調査箇所や時期を調整し、調査委託の監督を行いました。

5月3日の大雨による災害（=雨災）に関する業務では、実際に災害査定を受けるという貴重な経験をさせていただきました。今回は、平成24年度災害の宮城県第1次査定で、夏の暑い中、国土交通省の査定官や財務省の立会官の現場実査に対応し、事務所に戻ってからは図面・数量の修正作業を行いました。第2次、第3次も雨災、第4次、第5次は凍上災（※）や台風4号での災害査定が、順次、8月末までに実施されました。被災地では、単に地震の復旧業務だけでなく、このような新たな災害復旧業務にも対応していきます。





担当した只越橋（仮復旧済）



被災した護岸と漁港

（※）冬季の低温によって道路の地盤中に霜柱が発生することによる地面の隆起等により道路舗装面にひび割れなどが発生する災害。

3 気仙沼のまちの様子

気仙沼はフカヒシなどの海産物で有名な港町として知られていますが、今回の津波により、海岸部を中心に大きな被害を受けました。瓦礫は片付いたものの建物の建築は進んでおらず、全体的には殺風景な街並みが広がっていました。しかし、被災してから1年が過ぎ、カツオ漁も再開するなど、だんだんとまちの活気が戻ってきています。派遣中には、1年ぶりの夏祭りが開催され、多くの人で賑わいました。まちの復興に向けて、本当にたくさんの人たちが協力していることを感じました。



打ち揚げられた第18共栄丸



夏祭りの様子

4 おわりに

2ヶ月間という短い期間でしたが、気仙沼のまちの復興に少しでも貢献できたこと、災害復旧事業に携わることができたこと、様々な貴重な体験をすることができました。また、写真や映像ではなく、実際に自分の足で歩いて、目で見、津波を体験した人の話を聞いたことで、震災の現実というものをより深く理解できたと思います。これからも、気仙沼に限らず、被災した各地での復興が進んでいく状況を、実際に現地に行って体感していきたいと思っています。

派遣中は、気仙沼土木事務所の方々だけでなく、県庁や市役所職員の方々、気仙沼のまちのみなさん、たくさんの人たちのおかげで、無事に東京へ戻ることができました。改めて感謝したいと思います。一日も早い復興を心から願っています。

